三鷹市立第七中学校 令和4年度 【 英語 】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○単語や短文を聞き取る力と アルファベットや単語レベル の書く力を既に身につけてい る生徒が多い。中学校の選承 し、4技能5領域をバランスよ く指導していきたい。 ○集中力を持続するために毎 時間行う帯活動5分から10分 以内で3種類行い、これから 英語を学ぶ意識づけをしてい きたい。	○毎時間の帯活動でQuick Responseを行っている。一間一答でやり取りを終えるのではなく、何らかのリアクションをとることが少しずつできるようになってきた。 ○毎時間の帯活動でペアワーク(Q&A)を行っている。多くの生徒がスムーズにやり取りを行えているが、文字と音のつながりが身についていない生徒も複数いる。教科書に出てくる単語や短い文の音読を積み重ね、自力で読むことができるよう指導していきたい。	◎小中一貫カリキュラムに基づき、毎授業の目標と授業の流れを掲示し、授業への意識を高めさせる。 ◎音読を大切にするため、家庭でも復習ができるように、音読シートをタブレットに載せている。 ◎教科書の内容理解を補助するために、授業の進行順となっているワークシートを用いて、生徒の過度な負担を減らすとともに生徒自身が活動する時間を確保している。 ○ペアワークのQ&AやQuick Responseなどを授業始めに帯活動として取り入れ、既習表現の使用場面を増やす。 ○デジタル教科書やパワーポイント、タブレットの使用で、導入やパターンプラクティス、発表を工夫することにより、生徒の英語に対する興味・関心を高め、使用場面を増やす。
第2学年	○小学校の外国語活動・英語の時間の成果が感じられ、別いたり話したりする力がついたり話したりする力がついた状態で入学してくる。今日でかんでいるをでは感覚でつかんでい理由し、理由で学ばせ、深めさせたい。○楽しいこと後で他のことなどをでいるが、後で他のことをおびつかないことが多識させたい。	○生徒はよく反応し、間違いを恐れずに、よく 声を出してはいるが、その背景に意識がいって いないため、少しでも、言い方を変えたり、単 語を入れ替えたりするだけで分からなくなって いしまう。したがって一つ一つに意味があるこ と理由があることをおさえていきたい。 ○音読を繰り返すことによって、英語の語感を 身に付けさせたい。	○毎回教科書の導入を英語で行い、やり取りを通して聞く話す訓練をする。 ○教科書の新出表現をフラッシュカードを使用し、工夫をして何度も練習ができるようにする。 ◎ペアワークのQ&A、BINGOなどを授業始めに取り入れ、既習表現の使用場面を増やす。 ◎予習の段階で品詞を意識させたり、多くの例文を読んだりして語のイメージを感覚的につかませる。また、ノート作りを工夫させることで家庭学習の習慣を定着させる。 ○授業で使用するプリントもタブレットでも見られるようにしていく。
第3学年	○導入やパターンプラクティスの工夫により、基礎的・基本的な問題に自なったきた。 ○音・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○基礎的・基本的な文法問題は解けるが、長文問題に苦手意識をもつ生徒が多い。速く正確に長文を読み取る力を育てたい。 ○「話すこと(発表・やりとり)」の指導での工夫・改善と即興性の育成。既習表現を使って絵について説明したり、理由と共に自分の意見を述べたりする場面を多く設定していきたい。	◎小中一貫カリキュラムに基づき、毎授業の目標と授業の流れを掲示し、授業への意識を高めさせる。 ◎家庭でも復習ができるように、音読シートをタブレットに載せている。 ○ペアワークのQ&AやQuick Responseなどを授業始めに帯活動として取り入れ、既習表現の使用場面を増やす。 ○デジタル教科書やパワーポイント、タブレットの使用で、導入やパターンプラクティス、発表を工夫することにより、生徒の英語に対する興味・関心を高め、使用場面を増やす。 ○帯活動の長文読解境習において、読解に要する詩識させる。 また、きれいな日本語に訳さずに文の頭から意味のまとまりで読むことも意識させる。